



三事研広報

No.4

H26.1.23 発行

三重県公立小中学校事務研究会

発行者 釜須 雅子
編集責任者 福西 真美

めっきり冷え込む日が続いておりますが、会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。まだまだ寒さ厳しき折、風やインフルエンザ等で体調を崩しやすい季節ですが、体調管理にはくれぐれもお気をつけください。
今年も三事研をよろしくお願いいたします。

第45回東海地区公立小中学校事務研究大会 伊賀大会

平成25年11月7日(木)～8日(金)伊賀市文化会館において「子どもたちの豊かな育ちを実現する学校事務 ～ つながりをも 深めて語る 伊賀の秋 ～」をテーマに、第45回東海地区公立小中学校事務研究大会が行われました。多くの皆様にご参加をいただき盛大に開催できましたことを、心よりお礼申し上げます。

会員のみなさまには、大会参加のご協力のみならず、支部委員のみなさまを中心に駐車場・受付などの運営部門のお手伝いをいただきありがとうございました。

また、実行委員会を組織いただいた伊賀支部のみなさまに、心よりお礼申し上げます。3年にも及ぶ準備期間の努力や組織力や様々な思いが結晶したすばらしい大会運営には、参加者の高い満足と、実行委員会への賞賛の声が寄せられました。実行委員会のみなさまには、この経験をとおして得られた学びが事務職員として一皮むけるチャンスになりますようお願いしています。

伊賀大会の様子をご参加いただいた会員に報告いただきました。ご協力いただいた会員のみなさまありがとうございました。



お・も・て・な・し隊
にん木としのぶ+エスコート

文部科学省行政説明



「演 題」 初等中等教育行政の動向と課題

「講 師」 文部科学省 初等中等教育局 視学官 酒井 貢さん

文部科学省 初等中等教育局 視学官 酒井貢氏より「初等中等教育行政の動向と課題」と題して、資料に基づき丁寧な説明をしていただきました。頂いた資料は簡潔にまとめられ、とても参考になり、今後、学校でも活用したいと思えます。

まず、平成25年1月に閣議決定された教育再生実行会議のこれまでの動きと今後の予定についての説明がありました。現在、第三次提言まで行われ、高大接続、大学入試制度について検討中であり、6・3・3・4制の在り方についても検討していくということでした。提言の中身について下記の説明を受けました。

◎第一次提言【いじめ問題等への対応について】

①道徳教育の充実 ②いじめに対峙していくための法律の制定 ③体罰の禁止 の3点に絞ってお話がありました。

◎第二次提言【教育委員会制度等の在り方について】

現状の教育委員会制度の問題点を挙げ、政治的中立を確保しつつ、責任の明確化を図り、権限の見直しを行い、全国どこでも責任ある体制を築くということでした。

◎第三次提言【これからの大学教育等の在り方について】

・グローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため初等中等教育段階からの取り組みとして小学校からの英語教育を充実させる。



- ・日本人としてのアイデンティティを高める取り組みの充実
- ・社会を牽引する人材の育成
- ・理工系人材の育成 など多岐にわたって説明を受けました。

その後、文部科学省におけるいじめ問題への取り組みのほか、道徳教育の充実・改善のポイント、理科教育充実のための総合的な支援、特別支援教育の充実、小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業、体罰の実態把握について、全国学力・学習状況調査、学校評価についてなど、教育行政の動向と現状、今後の課題等についてお話をお伺いすることができました。いじめ問題への取り組みの説明の中で「社会総がかりで」という言葉が何度もでてきました。いじめを絶対に許さず、いじめられている子を全力で守るのは大人の責務だという意気込みが伝わってきました。

最後に「子どもたちが安心してよい教育を受けられるようにご支援、ご協力をお願いします。」と締めくくられた言葉には、私たち事務職員への期待と激励が込められていると感じました。（尾鷲 川口）

分科会報告

《第1分科会》

「未来へつながる私たちの研修のあり方」

～ 過去・現在を通して考える未来の共同実施・事務研活動 ～ （三重県 鳥羽支部）

第1分科会では「未来へつながる私たちの研修のあり方～過去・現在をとおして考える未来の共同実施・事務研活動～」と題して、鳥羽市と志摩市の2市小中学校事務職員45名で組織される鳥羽志摩公立小中学校事務研究会より発表がありました。これまでの鳥羽支部地域事務研の活動について「研修は楽しくなければ!!」という発想のもと行ってきた「ジムオネア」や「ジムのから騒ぎ」といった研修スタイルを実践していただき、会員同士が自主的に企画し、研修を通じてつながりを深めてきた様子を感じることができました。



一方で、総合教育センターでの研修など、事務研以外の研修体制が充実したことや、共同実施を通じたOJT体制が整ってきたこと、学校再編による会員数の減少といった環境の変化を受け、話し合いを重ねた結果、今年

度をもって鳥羽志摩公立小中学校事務研究会を解散することに決定したという発表がありました。

歴史ある地域事務研が解散することに寂しさも感じますが、環境の変化に応じ、未来を見据えて、よりよい体制を模索していくことは、非常に重要なことだと感じました。（鈴鹿 中川）

《第2分科会》

「子どもたちの豊かな育ちを実現する学校事務」

— 学校間連携を通した望ましい学校事務のあり方を求めて — （岐阜県 羽島郡）



第2分科会、岐阜県羽島郡からの発表による「子どもたちの豊かな育ちを実現する学校事務～学校間連携を通した望ましい学校事務のあり方を求めて～」に参加させていただきました。三重県と違い、岐阜県には6つの教育事務所があるようですが、羽島郡は全国的にも例のない、郡内2町による共同設置の教育委員会のもと、「学校運営支援室」という名の共同実施を行っている、ということでした。平成22年度より本格実施され、月1回「学校間連携協力会」を開催し、提出書類のチェックや事例交流などを行っているそうです。また、事務運営に関わって自己評価に加えて他職員からの評価も実施し、事務部運営計画の作成に活かしている、とのことでした。共同実施に関しては初心者マーク的な印象もありましたが、学校事務や学校間連携への理解を求める前向きな姿勢と熱意を、岐南町キャラクター“ネギッチョ”の工作キットとともにいただきました。（熊野 濱野）

《第3分科会》

「やめる・へらす・かえる」

～ 事務改善を通した若手育成の取組 ～ （静岡県 磐周地区）



まず表題の「やめる・へらす・かえる」という斬新な研修テーマに引き付けられました。ともすると、事務職員が楽をするという一見マイナスなイメージに捉えられそうですが、私たちも無駄なことは省いて事務効率を上げたいということで「やめたい・へらしたい・かえたい」とは常に思っているはずです。

それと、静岡県のコスモスプランです。「学校事務職員は、単に事務処理をするだけでなく子どもの姿を見つめて仕事を行う必要があること」というコスモスプランの意図は、学校事務職員の仕事に向かう姿勢の基本だと思います。

そんなこんな理由で第3分科会に参加させていただきました。そしたらなんと袋井市キャラクター・フッピーと磐田市キャラクター・しっぺいのおもてなしを受けてとても感激しました。その後、しっぺいはゆるキャラグランプリでなんと9位になったということでお得感倍増です。

発表していただいた磐周地区も他に変わらずここ数年大量交代期ということで、事務改善を通しての若手育成に取り組んでみえるということでした。地区教研のグループワークをとおして経験者が若手の事務職員に常に寄り添っていく形でアドバイスをしながら実践していくというものでした。

実施方法としては、「時間」「お金」「空間」の3つのカテゴリーを設けて、



before・process・afterの3種類のワークシートを作成し、進捗状況に応じて分析・アドバイスを行いながら事務改善に取り組むというものです。当日、そのワークシートを使った演習を行ったのですが自分が今やっている事務実践をふりかえることができました。このような事務改善による効率化は、事務職員のスキルアップだけでなく教員が子どもと向き合う時間の確保など教員の事務負担の軽減にもつながっていくということです。

若手、経験者が共に触発し合い高め合える研修実践ということで参考にさせていただくこと、考えさせられることの多い発表でした。ありがとうございました。来年の東海事務研静岡大会を楽しみにしています。

(桑名 松葉)

《第4分科会》

「学校財務の統括者を目指して」

～豊田支部のはじめの一步～ (愛知県 豊田支部)



第4分科会は1日目ハイトピア伊賀にて行われました。

冒頭、派手な衣装で登場した「にゃんわん姉妹」の軽快な、かけあいトークで会場の雰囲気は一気に和みました。

はじめの一步というサブタイトルがついていますが、学校財務の統括者の定義をはっきりさせ、その目指す目標点を定め、解決すべき課題を的確に分析し、課題解決と財務推進に向けた方策を探るという確立された研修体制と、研究の成果から有効なものは全体のものとして取り組みを推し進め、改善を継続的に検討し、成果の上がらなかったもの、必要性を見いだせなかったものは先進研究等の情報を集め、研究そのものの見直しを図るなど、その緻密で熱意あふれる研究姿勢に大いに感心させられました。

発表は、学校財務の統括者を目指して(1)財務研修の整備とそれに伴う現在の研修体制の見直し(2)学校財務の具体的な実践、という形で進められました。

教育委員会主催の研修も含め、現在の研修体制全体を見直し財務研修の整備を行うと共に、新たに「学校訪問研修」を実施したとのことでした。この研修への満足度が高かったため、更に発展させ、若手事務職員の資質向上を兼ねて「事務職員相談訪問研修」も施行したそうです。研修体制の見直しという難しいところに手をつけた実行力にも感心しましたが、具体的な実践内容からも参考にしたい点がたくさんありました。

助言者の長谷川先生からは、「学校財務の統括者を目指すには学校財務を教育活動に絡めなければならない。教育課程を認識し新たな関係性の構築を進めてほしい」とのお話がありました。これまでの対応型事務からニーズを読み取り、自分で企画・提案する発信型事務へと変革する方向性と、「つながり」の必要性を再認識することができた分科会でした。

(尾鷲 川口)



《第5分科会》

「未来へ・・・求め続けよう！みんなが笑顔になれる学校事務」

～あなたの「やりがい」ってなんですか？～ (静岡県 榛原地区)

「みんなが笑顔になれる学校事務」このタイトルに惹かれて参加しました。学校を取り巻く人たちみんなを笑顔にするために、まず、自分たちが笑顔になろう。自分たちが笑顔になるために、学校事務職員としての職務に、充実感、達成感を見出そう。そのことが「やりがい」につながる。そのためには、自分たちの資質、力量の向上。

情報機器の活用など時代に合った処理能力を高めながらも「笑顔」という変わらない思いを忘れない。キーワードは「笑顔」と「やりがい」。人と会話でつながることで、情報がたくさん入り、結果的には職務の向上につながることも教わりました。世代の違う三人のパネリストの方の「やりがい」「苦悩」「課題」を聞いて、共感できることも多く、自分の中でどう見つけていくか、これからの課題です。（熊野 山川）

《第6分科会》

「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」

～ 地域の特色を生かした学校間連携 ～ （岐阜県 揖斐郡）

第6分科会、岐阜県揖斐郡事務職員研究部会の発表は、揖斐川町事務職員部会、池田町事務職員部会、大野町事務職員部会の三本立で行われました。

大野町の研究実践では、①教育支援について②専門性の向上について③情報の収集と提供についての発表が行われました。教育支援では、カリキュラムに対応した年間備品一覧を作成しています。初めはカリキュラムに対応した理科備品一覧を作成するのに、各学年の『教師用指導書詳説』にまとめて記載されている各單元ごとの必要な備品を記載しました。その後、小学校では全教科について作成しています。算数の備品「上皿自動秤」は学習内容によっては1kg・2kg・4kgの3種類の秤が必要であることが分かり、学習内容がわかると備品の重要性を再認識したそうです。

また、揖斐郡の小中学校ではそれぞれの町内の学校が町サーバーに繋がり、情報を共有していました。個々の事務職員の実践や知識をその人のみに終わらせず、体系的にサーバーに保存集積することで、他の事務職員や次の世代の事務職員に繋ぐ事ができます。（亀山 福島）



《第7分科会》

「攻める！これからの研修」

－ 20代からのリーダー養成 － （愛知県 事務研研修部）



前半部分は先ず、愛知県の研修部が今後の学校事務職における人材育成のあり方を示す「自主研修体系 9次案」について策定の経緯とその内容についての提案がありました。5つのマネジメント【組織・情報・財務・カリキュラム・地域連携】の実践と3tor（スリーター）【アドミニストレーター・コーディネーター・ファシリテーター】の役割を担うことができる人材を育成することを目的に策定されました。職名と年数から今、身に付けるべき職務行動例も示されており、事務研が会員の自主研修を支援しています。

また、今後の世代交代が進む中で少経験者の割合が増えてくることからリーダーシップのあり方についても提案がありました。「サーバメント・リーダーシップ」とはフォロワーをバックアップするリーダーシップであり、組織の中で傾聴や共感といった行動から組織全体を歯車の様に噛み合わせていく手法です。一般的なリーダーシップのイメージとは違う側面からのアプローチに新鮮さを感じました。

後半部分では(株)Woomax 上席ファシリテーター浦野真奈美氏を講師に迎えコミュニケーションスキルについての講義をして頂きました。質問の聴き方によって相手の気づきが導き出されるかどうかが変わってくるという実習もありました。

全体を通して、今の自分に求められる職務能力とそのため学ぶべきことについて改めて考えることが出来ました。また教職員や保護者など学校に関わる全ての方々とのコミュニケーションに活かしたい沢山のアイデアも得ることができた分科会でした。（津 渡邊）

講演会

「演 題」 ～情熱“モクモク”、“まご”ころ笑顔で～
『地域の宝をさがせ!』

「講 師」 (株)伊賀の里モクモク手づくりファーム
代表取締役社長 木村 修 さん
三重県多気郡多気町役場
まちの宝創造特命監 岸川 政之 さん



三重県の方なら誰もが知っている「モクモクファーム」。その代表取締役社長である 木村修さんと、高校生レストランのドラマ化で今や全国区になった「まごの店」。その仕掛け人である 多気町役場 まちの宝創造特命監 岸川政之さんのお二人によるトークセッション形式で行われた講演会でした。

お二人とも優しい口調で、ゆったりと流れるようなトークでありながら、先駆者として、地域おこしや人づくりに情熱を注いできた人ならではの重みのある言葉が胸に染み渡ります。また、所々ユーモアを交えたトークは私たち聴衆を飽きさせることなく、新しい試みでしたが、素晴らしい講演会だったと思います。

初めに紹介ビデオやテレビ放映のビデオを見せていただき、ここにたどり着くまでのお二人の大変な苦勞が、改めて分かりました。また、常に未来をみつめ、新しいことに挑戦するお二人の行動力には敬意を払います。お二人からは「熱意」と「誠意」と「創意」の大切さを学ばせていただきました。

モクモクのものづくりや人づくり。多気町の高校生による商品開発、それをバックアップする地域。学校が地域と連携しながら『地域の宝』である子どもたちの豊かな育ちを実現するためのヒントがたくさん散りばめられていました。（尾鷲 川口）

支部の風景 鈴鹿支部

鈴鹿支部の共同実施は、市内小中学校40校を4つのブロックに分け、平田野中学校と神戸中学校の2つのセンターで週1.5日業務を行っています。平田野中学校センターは、校舎の建て替えに伴い、今年9月に移転予定です。



鈴鹿といえば、F1で有名な鈴鹿サーキット！開催時期には世界中から多くの方が鈴鹿に訪れます。

また、山や海といった自然に恵まれているため、お茶や海産物などの生産も盛んです。その他たくさんの魅力や個性のある鈴鹿に、ぜひ一度お立ち寄りください。

全事研セミナーのご案内

- ・日時 2月14日（金）
- ・会場 川崎市教育文化会館
大ホール
（神奈川県川崎市川崎区富士見
2-1-3）

